

CASBEE[®] あいち

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)/2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	木曾三川下流域ゼロメートル地帯広域防災活動拠点防災倉庫	階数	2
建設地	愛知県弥富市烏ヶ地二丁目43番2号	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	160時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年7月 予定	評価の実施日	2023年12月22日
敷地面積	2,929 m ²	作成者	峯村 英史
建築面積	1,696 m ²	確認日	2023年12月22日
延床面積	2,950 m ²	確認者	三宅 毅



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 85%

③上記+②以外の: 85%

④上記+: 85%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気質環境	N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

機能性	3.7
耐用性	3.5
対応性	3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	3.5

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

建物外皮の	N.A.
自然エネ	3.0
設備システ	4.2
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

水資源	3.0
非再生材料の使用削減	3.5
汚染物質回避	4.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

地球温暖化への配慮	3.6
地域環境への配慮	3.8
周辺環境への配慮	3.2

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
木曾三川下流域ゼロメートル地帯広域防災活動拠点防災倉庫

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		3.0	-	-	-	-	-	-	-	3.0
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	3.0	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-	-	3.0	-
2 温熱環境										
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 室温		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
2 外皮性能		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
2.3 空調方式		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
3 光・視環境										
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御		5.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
3.3 照度		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
3.4 照明制御		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
4 空気質環境										
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
4.2 換気		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 換気量		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
3 バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	-	-	-	3.0	-
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 内装計画		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.5	3.7	0.52	-	-	-	-	-	3.7
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	4.6	0.48	-	-	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		3.0	5.0	0.80	-	-	-	-	-	-
		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.1	0.33	-	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	4.0	0.15	-	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.4 信頼性		0.1	2.6	0.19	-	-	-	-	-	-
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-	-	-
3 電気設備	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性					0.4	3.5	0.48	-	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり					0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				平均階高 約5.32mの為。	-	5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率 約0.1085の為。	3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.1	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性			②	建物の構成がシンプルで、更新しやすい。	-	3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	4.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						-	0.57		-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	3.5	0.30		-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				1階に広いピロティがあり、空調を計画しない為、室外機がない。	-	4.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-		-	-	3.6
LR1 エネルギー						-	0.40		-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.13		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.68	3.0	4.2	0.63		-	-	4.2
4 効率的運用					0.2	3.0	0.25		-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価					-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング					-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30		-	-	3.6
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15		-	-	3.0
1.1 節水					3.0	-	-		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					1.0	3.0	1.00		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.5	0.63		-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			② 独自	-	再生クラッシャーランを基礎下部に使用	-	3.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	3.0	0.21		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	5.0	0.25		-	-	
建物構成がシンプルで、廃棄の際、分別しやすい。											
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	4.6	0.22		-	-	4.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	4.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	5.0	0.68		-	-	
1 消火剤					-	-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	5.0	1.00		-	-	
3 冷媒					3.0	-	-		-	-	
断熱材を使用していない。											
LR3 敷地外環境						-	0.30		-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			①			3.6	0.33		-	-	3.6
ライフサイクルCO2排出率85%											
2 地域環境への配慮					0.3	3.8	0.33		-	-	3.8
2.1 大気汚染防止					-	5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	4.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.3	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.33		-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	-	-		-	-	
3 交通負荷抑制			独自		-	3.0	0.33		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.33		-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33		-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00		-	-	
2 振動			独自		-	-	-		-	-	
3 悪臭					-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制					-	1.0	-		-	-	
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20		-	-	
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策					-	5.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		-	-	
適切な照明計画をしている											

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

不曽三川下流域ゼロメートル地帯広域防災活動拠点防災倉庫

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.7	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称

木曾三川下流域ゼロメートル地帯広域防災活動拠点防災倉庫

計画上の配慮事項	
総合	これはCASBEEあいち(2016年版)による評価結果です。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	構造体Ⅰ類、重要度係数1.5の建物として計画し、耐久性の高い建物とした。
Q3 室外環境(敷地内)	1階に広いピロティがあり、雨宿りや、日よけに活用できる。
LR1 エネルギー	換気機器は、タイマー制御によるスケジュール運転とする。
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上材が容易に分解可能である。
LR3 敷地外環境	駐車場の数の確保と利用しやすい配置計画を行うことにより、利用者への配慮をした。
その他	